基督教と政治

Christianity and Politics.

020482-000-5

特52-527

基督教と政治

田村 直臣／著

M23

ABI-0292

No 2880/23

序言

私が此小冊子を書きました重なる理由は。宗教と云ふ者は政治と云ふ者とは區域も違ひ。又働も異つて居る者ですが。抑其宗教と政治とは緻密な關係があるもので。眞正の宗教は腐敗し易き上に猶腐敗する者と云ふ者は無ければ政治のみでもを知らせ。基督教は何所の國を問はず。英で有ふが。日本であらふが國の基礎とも成る者で政治の方針を誤らせない樣に支配する非常な勢力のある教であると云ふ事を知らせたい爲です。若し此小冊子が國を憂る人々の一助ともならば夫れで私は滿足致します。

明治廿三年四月

田村直臣誌す

基督教と政治目次

第一章　基督教と國家
第二章　基督教と自由
第三章　基督教と皇室
第四章　基督教と政黨
第五章　基督教と外交

基督教と政治

第一章　基督教と國家

今を遡る七八年前の事でありましたが。私は米國へ留學に行く爲めに蒸氣船に乘りまして。横濱の港を後にして太平洋を指して馳り行きましたが。船は駛に隨て段々と陸地は見えなくなり。今まで高く眼の前に聳えて居ました富士の山も雲の中に顔を隠して仕舞ましたが。其の時の悲しさ實に親を失ふた樣に何となく心淋くありました。夫れと引き換へ四五年の後ち再び横濱の港に着き。日の本の地を見た時の其嬉しさ。口にも云へず筆にも書けませぬ程でした。人の性と云ふものは奇妙な者で。誰でも國に生れて其の國を幕はない者は一人もありませぬ。自分の生れた國程戀しい處

はありませぬ。國家と人とは親密なる關係があります。世界に英國とか、米國とか、佛國とか、支那とか、日本とか云ふて種々の國家の在るのは決して偶然に何の目的もなく何の用もなく出來た物ではありませぬ。人間がある上は必ず出來ねばならぬ。切要があり て出來たものです。多勢の人が一所に集合ますれば、乾度國家と云ふ者は出來ねばなりませぬ。國家と云ふ者は歴史の前にあつたものではありませぬ。此の世界に人間の生れ出でませぬ時には國家はありませぬでした。國家は歴史があつて始めて出來た物です。誰でも物の理窟を知りたい者は殊に國家と云ふ者は如何したものであるか。其の起源を知りたいものです。偖其の國家の起源には三の說があります。

第一の說に由りますと國家と云ふものは家族の發達したものである。家族が本で國家は其末である。國の王や又支配人を國の父と云ふのは結局家族の父が國家の父に成た證據であるとふて國家と云ふものは家族の少し進歩した者であると云ひますが家族と國家とは其區域も違ひ又其の働きも全く別です。家族は愛情の支配する領分です。國家は正義の支配する領地です。家族には愛が充滿ています。國家には正義が充滿ています。家族には父に從ふに心より喜んでします。國家では規則の力を畏れていやながら國王に從ひます。家族は國家を支配する愛情の性質を知りませぬが又國家も家族を支配する性質を知りませぬ。此世界には家族も國家も兩方とも是非なければなりません。正義や秩

序や律法ばかりで愛情が無れば此世界は獄屋です又愛情ばかり有つて正義や秩序や律法が無れば此世界は締りの無い家です兩方ながら全く性質の違ているものです左樣ですから國家は家族の進歩したものではありませぬ家族も國家も名々別々に其目的があり又無ればならぬ必要があり出來たものです國家は家族の進化したものだと云ふ說は間違です受け入れられませぬ

第二の說に由りますと國家と云ふ者は人が名々互ひ互に約束して出來た者である つまり約束が國家の起源であると云ひます昔し支配人も何にも無い時代には人が自分で誰でも支配人でありましたが其内に人々の内に爭ひが起りたり盜を爲る者があつたり又人を殺す者があつたりしましてから是では迚も立ち行ぬと人が互ひ互に約束を結びて支配人を置き其支配人に若しや人民の安寧や幸福を害する者がありますは不法な亂暴なる者を罰する權を與へました其人民の約束が出來て始めて國家と云ふ者が出來たと云ひます此說はルーソーと云ふ先生が主張せられました說であります一時は餘程政治社會で勢力を得た說でありましたが今日は此說を信ずる政治家は少くあります若し國家と云ふものが此說の樣に人が思ひ々に自由に相談して約束の上で始めて國家と云ふものが出來たものであります者ならば國家は恰好と秋の空の樣に變り易く今日の國家は明日の國家と換り人民の多數の望み次第國家が亡滅たり又起りたりして何時天氣が變るか分

序や。律法ばかりで愛情が無れば。此世界は獄屋です。又愛情ばかり有つて。正義や。秩序や。律法が。無れば。此世界は締りの無い家です。兩方ながら全く性質の違つているものです左樣ですから。國家は家族の進歩したものではありませぬ。家族も國家も名々別々に其目的があり。又無ればならぬ必要があり て出來たものです。國家は家族の進化したものだと云ふ說は間違です受け入れられませぬ。

第二の說に由りますと。國家と云ふ者は人が名々互ひ互に約束して出來た者である。つまり約束が國家の起源であると云ひます。昔し支配人も何にも無い時代には。人が自分で誰でも支配人でありましたが。其內に人々の內に爭ひが起りたり。又人を殺す者があつたりも盜を爲る者があつたり。

ましてから。是では迎も立ち行ぬと人が互ひ互に約束を結びて。支配人を置き其支配人に若しや人民の安寧や。幸福を害する者があります時は。其不法な亂暴なる者を罰する權を與へました。其人民の約束が出來て始めて國家と云ふ者が出來たと云ひます。此說はルーソーと云ふ先生が主張せられました說でありますが。一時は餘程政治社會で勢力を得た說でありましたが。今日は此說を信ずる政治家は少くあります。若し國家と云ふものが此說の樣に人が思ひ々に自由に相談して約束の上で始めて國家と云ふものが出來たものでありますならば。國家は恰好ど秋の空の樣に變り易く。今日の國家は明日の國家と換り。人民の多數の望み次第國家が亡滅たり。又起りたりして。何時天氣が變るか分

りませぬ。實に國家と云ふ者は危いものです。約束と云ふ者は成程大切なものには相違ありませぬが。國家の基礎は約束ではありません。國家は人の心の樣に變り易い心の上に建てられた家ではありませぬ。國家は變る事の無い。神の心の上に建てられた家です。百年前に佛國に大改革がありましたが。其時人民は自由自由と云ふて自由の旗を立て。政府を顚倒し。貴族を殺し。町は血の川を流し。野には屍を以て積み上げましたのは。理由の有る事です。國家と云ふものは人民の約束から成て居るのでありますから。人民の望み次第自由に何時でも其約束を解く事が出來ると云ふ此說を信じたからであります。實に國家の起源は約束だと云ふ說は怖しいです。

第三の說に由りますと。國家と云ふものは腕力の結果である。權力ある者が己れの權力に恃み。腕力に訴へて弱き者を苦しめ。無理矢鱈に押しつけ。己の權下に降伏させ。嚴しい規則を作りて其人民を支配し。自分は王樣氣取りで知らぬ顏でトウ〳〵人民を我物にして仕舞た其腕力が國家の起源だと云ひます。成程歷史を調べて見ますと隨分權力ある者が腕力に訴へて弱者を己の手の下に從せた例はあります。國家の性質と。其働きを能く〳〵考へて見ますと。腕力を國家の起源と云ふ說と大變に反對して居ります。抑國家の在る理由は正義に從ひ人民の安寧。幸福。自由。公益。を保護する爲です。國家の基は腕力ではありません。正義です。其正義を重ずるは國家の義務です。正義の無い國家は國家の名が

在ても眞正の國家ではありません。左樣でありますから國家の起源を腕力抔と云ふ者は取るに足らぬ説です。

基督教の敎へます國家の起源は正義です。ノアの大洪水の後人民腐敗して非常に惡しき位置に陷り人の物を盜み又人命を害する樣なる惡事を爲る樣に成りましたから神は「人の血を流す者は其人又血を流されん」と正義に從ひて國家の基礎を置き玉ひました。生命の權は人が神から賦與られました特權です。夫ですから神が人に賦與られました生命を害しまする者ならば唯だ國家に對しての罪人ではありませぬ。聖き神に對して大罪人です。抑も國家の起源りました理由は人の生命を保護し人の自由を害はせぬ爲てです。神は自からの正義を基として國家を設け刑罰を以て其國

家の基礎なる正義を守らせ玉ひました。國家は聖き神の設け玉ひました聖き政體です。國家は家族の進化したものでもありません。人民の約束から出來たものでもありません。神自からの國家の切要を知らしめし玉ひて設け玉ひましたものです。故に國家と云ふものは人民の勝手次第に善い加減に動す事は出來ませぬ。國家は砂の上に建てられた家の樣に風が吹いたり雨が降りたりすると直ぐ倒れる如き微弱ものではありませぬ。國家は磐の上に建られた家の如くに烈風が吹き劇雨が降りても中々倒れませぬ。基督敎の敎ゆる國家の基礎ほど理に適ふたものはありませぬ。國家の基は如何しても正義で無ければなりませぬ。日本に生れて日本の空

氣を汲ひ。日本の憲法の下に有りて日本の民である者は。日本の國家と云ふものは如何した譯で出來たものであるか。又國家の義務は何であるか。能く〳〵其起源の理由を知つて居らぬと。何にも知らぬ處から。とんでもない大きな害をものは聖きものにて。神の設け玉ひましたものと信じます國家に來す事があります。基督信者は飽までも國家と云ふから。何所までも國を愛します。國の爲めには喜びて二つと無い生命も犧牲に供へます。基督教は國家の聖らかなるあとを敎へ。愛國の精神を盛にする敎です。

第二章　基督敎と自由

自由〳〵自由〳〵と人々が云ふ聲を聞きますと。恰好赤子が母の柔和い聲を聞て悅び。夫が愛する妻の麗しい聲を聞て樂

む樣に。何となく胸がドキ〳〵して血は荒ら立ち。心は喜悅に充滿されます。其の樣に人が自由を愛し慕ひますのは何よりの證據です。人は自由の人間であるからです。人に自由が無れば木や石と同樣です。決して萬物の靈長と尊敬せらるゝ事がありませぬ。自由は人間の持つて居る特權です。其自由は神より賦與られました貴重な賜物です。左樣ですから人は神から賦與られました自由は飽までも貴び又た重んずるのです。誰でも心に想ふ事を無理に止らるゝ程苦い事は有りません。口に云んとする事を無暗に壓へらるゝ程辛い事はありません。筆を執つて綴らふとする論文も思ふ樣に書くことの出來ない程悔しい事はありません。自分が金を出して買た地面も自由自在に爲る事の出來ない程馬

鹿らしい事はありません。人間と生れて本心の自由を害せらるゝ程殘念な事はありません。又政府の下に在りながら其政府の爲る事に少しも口を交るあとの出來ない程忌々しい事はありません。誰でも自由の思想や。自由の言論や。自由の出版や。自由の地面や。自由の人間や。又自由の政府は熱望む所です。ゼルマンのヘゲルと云ふ哲學の先生が「人間の最も大きな目的は自由を得る事である」と云はれましたが眞に左樣です。彼の米國の民が百年前英國の壓制を受け米國の民であるに民だけの自由を得る事の出來ない處から。終に戰爭を爲て自分の自由を得ました事がありましたが。其時代にパドリック・ヘンリーと云ふ大變な能辨の人があり

まして盛んなる演說をして非常に米國人を勵ましました。

其人の演說の中に「私に自由を與へよ左なくば私を死しめよ」と云ひましたが。誠に自由の爲には二人と無い親でも厭ひません。可愛い妻でも惜みません。血を分けた子供でも惜みません。又自分の二と無い大切なる生命でさへ惜みなく棄まする位自由と云ふものは人の貴ぶものですが。世の中には自由と云ふものは如何云ふものであるか少しも知らない者が有り。又自由と我儘と間違ひ自由を我儘と思ひ如何樣に腐た事を思ふとも。如何樣に惡口を云ふとも。如何樣に人の事を惡く書き立てよふが。如何なる事を爲ふが。勝手次第妻でも金でも地面でも皆な人間の共有物である。彼女は彼人の妻此金は彼の人の金。又彼の地面は彼人の地面と云ふ樣な差別は無い女は手當り次第誰の妻に爲ても宜しい。金は

誰が遣ふても宜し。大金を出して政府拵を拵へて多勢の役人を雇ひ。其上に天子とか貴族とか又華族とか云ふ何にも縁の無い者を養ふて遊せおくのは無益である。神もいらぬ家族もいらぬ。又た政府もいらぬ。我一人で勝手次第に何事でも爲るとを自由と思ふて居る人がありますが。如斯な人は自由と云ふ名のみを知て自由の實物を知らぬ人です。佛國の改革の時に自由は如何云ふものであるか何にも知らぬ奴輩が人々から動搖され自由々々と自由の名を騙取り。自由を題目に使ひ實は不平の心を思ふ存分に癒さんものをと自由の旗を立て恰も好戰場に出る樣に繰り出し。金滿家と見れば擊ち倒し。貴族と知れば直ぐ殺し。市街に血の川を爲した事がありましたが。其時罪も何にも無いローランドと云ふ貴女も此自由の面を被つて居る亂暴黨の爲めに無慘なる死を遂げましたが。死なんとする時に身の毛も立つ樣なる聲をあげ張り裂く計りに叫び「自由よ自由よ汝の名を騙取り非常に罪惡を爲り」と亂暴黨の奴輩に云ひましたが此不平や亂暴を自由と思ふのは實に氣が知れませぬ。英國のキングスリと云ふ學者は「自由に二つの種類がある一は僞りの自由で。何でも彼でも自分の勝手氣儘なるとを爲る自由である。二つには眞正の自由にて。爲ねばならぬ事を爲る自由である」と云はれましたが眞正の自由とは正しい規則の下に有つて其規則の内を自由に泳ぐのが眞正の自由です。基督教は眞正の自由を得るの方法を敎へます。基督教は

政海の自由の根源です。基督の名の爲めに設立られて居ます教會の組織を能く吟味して見ますと今日政治海で同權同等と云ふ原理が能く實行せられて居ます。基督の教會に屬する者は女で有ふが男で有うが學者で有ふが無學の者で有ふが。位の高い者で有ふが。賤しい者で有ふが。貧乏人で有ふが。誰れでも彼でも皆な神の前には同等です同權です。神の教會では英國の女王でも女です。ロシヤの皇帝でも人です。教會の内では女王とか皇帝とか云ふ位はありません。金の効能や學文の力で上等の地位を占むるなどはありませぬ。基督教國と云はるゝ英國や曼國や米國の政治の組織は基督教會の模形に從ひ。人は同等同權であると云ふ主義に基ひて建た家です。國は人民有つての國です。人民の國です。人民の爲めに國があります故に人民が本です。人民が自由であつて始めて自由の政府が有るのです。昔の政治家は國と云ふ者があつて始めて人民と云ふものが有ると思ふて居ましたから。國程最上のものは無い政府程權威のある所は無いものゝ樣に考へ人民をば物の數とも思ひませんでした左樣ですから。昔アゼンス人は自由の民であるとかロマ人は自由の人民であつたとか云ひますが。能く〳〵其國の有樣を調べて見ますに國民の過半は奴隷でありまして。其奴隷は獸と同樣にて政府に關係る何の權もありませんでした。夫れ故に何程アゼンス人やロマ人が自由の人民であつたと申しても眞正の自由の人民ではありませんでした。基督の教へ玉ひました人は神の前に

は女でも男でも誰でも彼でも皆な同等同權であると云ふ教理は其基督の教を信ずるものが常に重んじ貴び飽まで也其教理を貫き。遂に政海にまで及ぼしました。其例を御話申せば彼の猶太の政府は基督を十字架の上にて殺したから最早基督教は基督と偕に死で仕舞つたと。安堵の思を爲して居りしが。計算と云ふものは往々外れるものにて。基督の死に玉ひし後。基督教は死んだ處ではなく基督教は火の燃ゆる樣に西東に廣り。大變に多勢の信者が出來ましたから。政府の役人は呆氣に取られた樣に。是は當が外れた是は一日も此儘にして置いてはならぬと。互々に相談を遂げ政府の權威あれば何事でも出來ると思ひ。基督教を傳ふる傳道師を呼集め嚴命を下して決して再び說教を爲してはならぬと云ひ付けましたが。傳道師等は大膽にも政府に對ひ「我等基督の教を信じ其道を人に傳ふるは神の命じ王ふ事です。宗教を信ずるのは神より附與せられました貴重なる本心の自由です。政府の權威も其事には干渉るあとは出來ません。政府の命に從ふは神の命に從ふは人間の爲ねばならぬ義務である」と云ひはりて。政府の命には從ひませんでしたが。是が抑も基督信者が政府に其政府の權威に限りあり又政府の權威の及すあとのできない處のある事を敎へました極く始めの例でした。其後基督教が何所の國に行きましても何時でも自分の自由を飽までも主張して自由の貴重なる事を敎へました。彼の英國の政治海にて自由の本源と云はるゝマグナ、カルタの原案を綴つた人は基督

の道を傳ふる教師でありました。又獸の樣に取扱はれ。鳥や牛を賣買する樣に賣買せられ。自由も與へなければ權利も與へられず。愛する妻と子供とに生き別れを爲て一生涯哀れ敢果なき位置に陷つた奴隷を救ひ擧げ。人間の位置に立ち歸らせ自由の人間としたのは基督の信者です。基督教は政治上同等同權の原理を教へます。基督教の盛んな國々と基督教を信じない國々と比較へて見ますと基督教を信ずる國は民權自由の盛なる所です。基督教を信じない國は壓制專政の盛なる所です。基督教を民權の敵だとか基督信者は自由の反對者とか云ふのは大變な間違です。事實と適ひませぬ。又基督教は政治海には何の關係も無い基督信者は政治上の事に嘴を入るゝは本分に背きて居る樣に思ふは

大變なる誤りです。基督教は社會の道德を清潔にし。人の人である義務を教へ。神の爲め國の爲めに犧牲に供へる人物を作ります。政治海に大切なる一日も無ければならぬ教です。其教を奉ずる信者は民權自由の爲めに犧牲に供へます。基督教は民權自由の先導者です。

第三章　基督教と皇室

近頃世間に國粹保存黨とか云ふ者が流行いたしますが。國粹保存黨は何でも彼でも日本に在り來りのものはチョン髷で有ふが。上下で有ふが。香物で茶漬で有ふが。有りの儘に保存して置ねばならぬと云ひ。保守黨は日本は世界に二と無い皇國である。天子樣の血統と云はい。連綿と

二千五百年も御血の混合なく續いて居る。實に珍らしい御家柄であると云ひて。國王を神樣の樣に尊敬いたしますが。此樣に云ふ黨派に屬する人等は。天保時代のおじいさんの樣に。何んとなく昔が戀しいと見え。何んでも彼でも。天保時代の考へや。又天保時代の爲來りを。有の儘に明治の時代に擔ぎ來り。少しでも耳新しき聞馴れない者なら。何んでも惡ひものと考へますが。斯く云ふ人に限つて。基督敎は異國の敎であるから。異國から來た敎を信ずる者は。神國に對して罪人であるとか。基督敎は。君と臣との間を違ざけるものであるとか。皇國を亂すものであるとか。王室を危くする者であるとか云ふて。何んだか基督敎は王室には破裂丸の樣に畏しきものといたしますが。基督敎徒は。其人々の思ふ樣に。

皇室の敵ではありませぬ。我國の天皇陛下を尊敬し。其君に忠義なるおとは。國粹保存黨や。王室黨の人等には。一歩でも讓りませぬ。併し基督信者が天皇陛下を尊敬する理由は。國粹保存黨や。王室黨の人々が。天皇陛下を尊敬する理由とは雲泥の違いがあります。是より基督信者が天皇陛下を尊敬する理由を述べませふ。

第一　基督敎信徒は天皇陛下を神として尊敬はいたしませぬ。

昔と云ひますと。何んだか百年も千年も前の樣ですが。左樣昔のおとでもありません。唯二十四五年前までは天子樣の御通行あそばします時は。二階の戸抔は締切て仕舞ひ。女抔は裏はしと申して。二階の戸の空間や。木瘤の穴から窺き見

ましたが。公に一足も外には出つるあとは出來ず。男でも乞食の樣に地に頭を摺附け。御通りの前には手を洗ふたり。身躰を清めたり。又賽錢を投げたりして。恰好ど神樣の樣に思ふて天子樣を尊敬したものです。今日でも田舍のおじいさんやおばあさんや。舊弊の人ばかりではありませぬ。隨分物の理屈を知つて居る人々の內にも。天子樣を神樣の樣に思ひ。天長節だとか云ふと。諸學校の生徒に嚴命を下だして。天子樣の寫眞を拜ませたり。又太神宮の社祠に參詣させたりして。若し基督教信者の內に。天子樣の寫眞を拜まないとか。太神宮を拜まないと云ふと。基督信者は皇室を尊敬せぬとか。基督教は臣民の義務を欠くとか。國の秩序を害するとか云ひますが。基督教は神は唯一つであると云ふ事を敎へます。

宇宙を造り夫れを治めて居ます神の外には決して神は居ませぬ。天子樣は位高く在せられますが。畏れ多くも我等の樣に人間で居らせられます故。其人間に在します天皇陛下を神として尊敬いたします。天皇陛下に對してすまぬ理由。又神に對しては大きな罪です。然れば基督信者の天皇陛下を尊敬いたしますは。天皇陛下は神で在ますと云ふ理由ではありませぬ。

第二　王の在る國だけが其の國と思ふから。其の理由で天皇陛下を尊敬いたしませぬ。今日世界に行はれて居る政體を大別いたしますと。三あります。一は君主政治にて。一人が大權を握つて人民を支配する國です。二は貴族政治にて。四五人の勢力ある人々の支配

する國です。三は共和政治にて。人民の支配する國です。基督教は人民を治むるに。君主政治で無ければならぬとか。貴族政治でなければならぬとか。又共和政治で無ければならぬとか。政治の方法に就ひては一定の規則を敎へませぬ。神は政治の方法は其の國人民の望みに任せておきたまひました。政治と云ふ者は。人民の敎育や。又境遇に依つて異ります。米國の樣に寄合持の身代と云ふ樣な國は。共和政治が其の人民に能く適當して居ます。又日本や支那の樣な家柄の宜しい。田舍の庄屋どんの樣な國は。王國が其の人民に能く適當して居ます。政治の方法と云ふものは。印を捺した樣なものではありません。人民の敎育と境遇に依つて大に變化する者です。百年も立ちたらば。今日の米國は如何んな政體の國に變るか。

又今日の日本はどんな政體に成るか。少しも分りませぬ。國は變化はいたしませぬが。其の國の政治の方法に變化があります。故に基督信者は王國といふ者は。眞正の國で。其の政治の方法が正義であつて。他の政治の方法は皆間違つて居るから天皇陛下を尊敬するのではありませぬ。

第三　基督信者が天皇陛下を尊敬いたしますは。國に在つて權を握ぎる者の其の權は。神より與へられたものであると信ずるからであります。

第二章に述べました通り。國家と云ふものは。神の設け玉ひました者で。聖いものであると云ひましたが。國家と云ふ者があるからには。其の國家には人民もなければならず。又た其の人民を支配する王か。又たは大統領が無ればなりませ

ぬ。人民ばかりで其の人民を支配する者が無ければ國家の基である正義を實行することが出來ません。支配人が在る上は。人民を治むる權が無ければなりませぬ。偖て其の權は偶然に飛び出して來た者でもなく。又人民が自分で其の支配人に與へたものでもありませぬ。若しや王の權は。人民の與へたものでありますなら。いつ何時でも。自分の勝手次第に。其の王の權を奪取ることが出來ますが。人民には。決して其の樣な權力は有りませぬ。上に在つて權を保つ者の其の權は。皆神より出たもので。皆神の賦與玉た者です。此の理由で基督信者は。何所までも天皇陛下を尊敬するのです。聖書に「上に在て權を掌る者に凡て人々服ふべし。蓋神より出ざる權なく。凡そ有ることろの權は神の立てたまふ所なれば也。是故に權に悖る者は神の定に逆くなり。逆者は自から其罪の定を受くべし」とあります。この樣に。基督教は天皇陛下を尊敬せねばならぬ理由を教へます。故に上に在て權を掌る者の其權は。神の賦與へ玉ふた者であると信ずる以上は。如何しても基督教徒は天皇陛下を尊敬せねばなりませぬ。尊敬せざれば直に天皇陛下に對して無禮ばかりでなく。眞神に對して罪人です。歴史を繙べて見ますと。何時でも基督信者は國王に忠義な者です。彼の羅馬國(ローマのくに)の(ニロー)と云ふ王は。音に響ひて居る惡逆の王でありましたが。或日此王は家臣に命じて町に火を放させ。家屋はドンく燃え揚り花火の樣に空天に錦を散らして居るを見物せんとて。侍女を從へ高臺に登り。女の膝を枕にしながら酒を飲んだり。女に琴や三味線を調

べさせたりして。樂しみながら人民が難澁するを意にも懸けず。火の手の益々激烈あるを悅んで居ましたが。此樣に惡逆なる王の爲めに。火事の最中に基督信者は熱心に祈をして。神に羅馬國の爲め。又王の安然幸福ならんことを祈願して居りました。此一事を見ても。基督信者が王を尊敬する心の熱さことが知れます。彼の曼國のルーテルと云はゝ。誰でも知つて居ます宗教改革者でありましたが。非常なる尊皇家にて。飽までも王室を尊敬した人であります。今日基督教國と稱るゝ曼國や英國を御覽なさい基督教は盛ですが。王室を危く致しませぬ。又君と臣の間を遠けませぬ。誰一人あつて基督教は王室の敵である抔とは。決して申しませぬ。基督教徒は眞正の王室黨です。

第四章　基督教と政黨

地質學の書物を見ますと。魚の時代とか。鳥の時代とか。又人間の時代とか云ふて。種々の時代がありますが。明治の世界に流行ました物の時代を分けて見ますと。教育流行の時代もあれば。洋行流行の時代もあり。束髮流行の時代もあれば。舞踊流行の時代もあります。今日は政黨流行の時代です。其證據には。青年が四五人も集れば。直ぐ政治上の議論を始め。其の結果に政黨を組織します。唯書生ばかりではありません。箱入り娘も。腰の曲つた媼さんも。政治世界に顏を出し。政黨を組織するで有うと思ふ樣な時代に成りました。政黨の數は中々夥多あります。其重なるを擧げますと。自由黨、改進黨、愛國黨、保守黨、自治黨、尊皇奉佛黨、此の外にも能く〳〵探

がして見ますならば。何程の位政黨が有るか知れませぬ。今日の時代を政黨流行の時代と云ふは誤りではありますまい。憂國者の中には。斯く政黨の東西に。ドン〳〵出來るとを悲みも。政黨は社會の秩序を害するものとか。何とか云ふて。政黨の滅亡を謀る者もあれば。又間違つた信仰を持つて居る基督信者の中には。政黨を組織したり。又其の政黨に加入するは。聖書の教に反するとかなんとか云ふて。政黨の撲滅を計る者がありますから。私は此章に於て。政黨と基督教とは如何云ふ關係あるか。基督教は政黨の組織せらるゝを禁ずるものであるか。基督信者は政黨に對して如何な意見を持て居られねばならぬか。聊私の意見を陳ふと思ひます。

第一　基督教は政黨の組織せらるゝを禁止しませぬ。基督

信者は各々取る所の主義に從ひて政黨を組織するも。又同主義の政黨に加入するも。基督信者の自由です。

政黨と云ふものは。格別に蛇蝎の樣に憎ひ惡しきものではありませぬ。國の政體が代議政治に成りますならば。是非とも政黨と云ふものが起らねばならぬは。自然の理です。代議政治に政黨なければ。恰好蒸氣車に蒸氣の無きと同樣に。代議政治の用を爲しませぬ。政黨と云ふものは。政治上同一の主義を保て居る人々の聚合です。人に圓き顏があり。長き顏があり。又四角の顏があつたりする樣に。十人集れば。政治上の議論も十色に異ります。自由貿易でなければならぬとか。又保護貿易でなければならぬとか。撰擧の權は人民に誰れ彼れの區別なく。一般の人に與へなければならぬとか。又唯

智識の有る者か財産家で無ればならぬとか。中央政府を強大して中央政權に爲ねばならぬとか。地方政府でなければならぬとか。種々の說があります。其中に說の能く合ひ議論の一致する人々が一定の主義に基き。政綱を作りて。始めて政黨と云ふものゝ起るのです。其政黨が國民の多數を占めますときは其政黨は芝居の樣に座頭より馬の後足に至るまで。市川家の者を役者に使ひ。客の氣に入る樣に。餘り幕の長くなきやう。何とかして面白く人氣を取つて。一興行を爲るのです。若し段々と見物人の無くなると。市川家は一座を殘らず退きて。中村家に其座を讓り。其他の役者に。又一興行を遣らせます。政黨ありて人民の好む政略を行ふ事ができます。誰れでも國に生れ。其國の政略を自分の思ふ儘に爲した

いです。政治に參與るおとのできるは。國民の花です。又榮です。米國の青年は一生涯に二つの大望があると云ひます。一は自分の愛する女と婚姻するおと。二は二十一歳に成り入れ札の權を得て。政治に預るおとであると云ふおとですが。其に國に生れて如何に智識があつても。金が無ければ政治に參るおとができない程馬鹿らしきおとはありません。政治にあづかるは。國民の義務です。基督敎は政黨を組織するおとを止めません。又政黨の政綱を敎へません。唯國民たるものは。其國民の義務を盡さねばならぬおとを敎へます。其神の命に背かず。國の幸福秩序を害さぬ上は。如何なる政黨を組織するも。政黨に加入するも。基督信者の自由です。

第二　基督敎と政黨とは。混合してはなりません。宗敎は政

黨であります。

前に述ました様に今日は人が政黨に醉ふて居る時代ですから。何如でも政黨と云はゞ。實物は政黨でなくとも。人氣を挽き込むことができると考へ。政黨の名題で一番甘汁を嘗て遣らうと。僧侶等はぼうず鉢巻を爲て。衰頽て死に懸つて居る佛教を。尊皇奉佛大同團とか。何んとか云ふて。政黨臭い宗教臭い名を付けて。政黨の仲間入をして。佛法信者でなければ。縣會議員にも國會議員にも撰ぶことはできない。佛教信者の外は。天子様を尊敬する者はなき様に考へほらをブウ〳〵吹き立て。畏れ多くも天子様を名題につかつて。佛教の再興をはかる抔とは。何んだか投機師の様に危險い商法です。何か政黨の仲間入を爲した爲めに。損を爲ねばよいが

と基督信者ながら案じます。宗教が政黨の仲間入をしたのが佛教が宗教社會の先導者でしよう。基督教は飽までも宗教です。政黨ではありません。基督教の本分は。人間の罪惡に沈淪てゐるのを救拯ふ教です。基督教は自由貿易や保護貿易の利害得失を論じません。又人民の撰擧權の區域を教へません。基督教は眞正の宗教です。基督教を一の政黨の如に思はるゝは甚な誤りです。假令基督教は衰へることがありましようとも政黨の仲間入は何所までも致しません。宗教と政黨と混雜させるは。宗教にも益なく政黨にも益はありません。宗教と政黨とは。月と鼈です。性質が全く異つたものです。何程佛に願を掛けても。宗教と政黨と夫婦に成つて。中善く暮すことはできません。一度夫婦に成つても。添はれぬ緣

で直ぐ離縁となります。宗教と政黨と混合するは國の害を招く基です。憂國者は飽までも防禦ねばなりませぬ。

第三　基督教は政黨を支配する勢力ある者です。

基督教は政黨では無と申しますと。直ぐ夫れならば基督教は少しも政黨に關係の無者の如に考へ基督教は社會に對して何の價値も無いとか。基督教は隱遁宗教だとか云ひますが。基督教は政黨と緻密の關係を有つて居る教です。恰好人形芝居の人形使ひの樣に。人形の後に在つて。政黨を支配する勢力があります。基督教は人間の德義を高め。國の清潔を計る教です故に其政黨を組織して居る人々とは緻密なる關係のあるとは論を俟ちません。改進黨に入つて居る者は猿ではありませぬ。自由黨に入つて居るものも虎ではありませぬ。自治黨に加はりて居る者は象ではありませぬ。尊皇奉佛に加入して保守黨に屬く者は牛ではありませぬ。皆貴き人です。其人と基督教と居る者は豚ではありません。政黨にも亦關係あるとは密着の關係があります。何程政綱は立派にあつても其黨派に屬して當然の事です。何程政綱は立派にあつても其黨派に屬して居る人々が。不正で德義も何にも頓着なく。賄賂を取つたりする破廉恥の人計りであります。國に非常なる毒を流します。政黨の腐敗したるは。卵の腐つたのよりも致し方のあきものです。政黨と云ふものは腐敗し易きものですから。其政黨の後に在つて。腐敗しない樣に保護して行く勢力の在る者がなければなりません。基督教は政黨を支配する勢力ある教です。基督教は清潔なる眞正の德義ある政治家を

養生します。基督教は唯自由黨や改進黨の德義のみを高める教ではありませぬ。自治黨も保守黨も何にでも彼でも。總ての政黨の支配を爲す勢力ある教です。

第五章　基督教と外交

今日は迚も世界萬國の交通は黄金の時代とは云われませぬ。英の獅子はまだ血が吸ひ足らぬと云ふ樣な顔をして居ます。佛の狼は折があらば一番甘ひ肉を喰ふて遣らふと待て居ます。又露の熊は雪や氷の中から頭を持ち擧げ暖な地方に暴れ出よふとして居ます。未だ萬國の交通には正義の論理を用うるよりも軍艦や大砲論法を用うる方が餘程効力があります。併し萬國交通の道も以前と比較して見ますと。冬と春との相違があります。今日は攘夷論を主張し日本

だけが神國で外國は皆夷國である抔と云ふ者は一人もありませぬ。日の丸の旗を翻へして西東北南何所の港にでも自由に錨を卸すことが出來ます。電信は陸地にも海の底にもあり。恰好糸卷に糸が卷てある樣に電信の鐵線は地球を卷て居ります。其電信の御蔭で一日の内にソラ露西亞では王樣が氣狂に成つたとか。英國ではグラットストーン大宰相が八十年の祝宴を開いたとか。曼國ではビスマーク公の政略に飽きて來たとか。佛國では流行病が盛んだとか。米國では國會の議場で大議論が起たとか。何でも彼でも三疊敷の小さな部屋で火燵に暖りながら新聞紙の電報欄内を見れば分ると云ふ便利の世界と成りました。世界には最早隱遁國は無なり。何所の國でも國と國とが親密に交通する樣に

成りました。今日は不充分ながらも萬國公法と云ふものが出來まして。國に法則の在る樣に。國と國と交通するに法則があります。昔は外國人と見れば夷人だとか何だとか云ふて。其國人を非道に取扱た者ですが。今日は日本人有ふが支那人で有らふがインド人であらふがアフリカ人で有らふが露西亞人であらふが。佛人であらふが曼人であらふが英人で有らふが。又米國人であらふが其國の法律を守る以上は。誰れ彼の差別なく。同等に取扱はれ。自分の望み次第英人が曼人に成つたり。佛國人が米國人に成つたり。日本人が英人に成つたりするあとが出來ます。又昔は戰と云へば其の戰、ふ國を亡すのが其戰の目的であつて。俗に僧侶が憎けりや袈裟まで憎いと云ふ樣に。戰に勝つた國は其負た國の何

んにも知らぬ女やおじいさんや子供までも。無慘に殺したものですが。今日は戰の目的は正義を明にして。戰に負た者に其國の不正な事を知らせる爲ですから。戰の勝負がチヤンと付けば。今まで刃を閃めかして戰つて居たものも。朋友の取扱を受け。其者どもを安然に國元に歸らせ。親や妻や子供の顏を見させます。又何所の國にも赤十字社と云ふ慈善の社がありまして。戰が始まりますと。醫者や看病婦を戰場に派出させ。敵味方の差別なく。誰でも彼でも負傷した者があれば。醫者は藥を飲せたり看病婦は其病人の介抱を爲たりして。何から何まで其病人の爲に氣を附けます。又昔は國と國と交際するために。使はされて居る公使と云ふ者は。恰好戰の間者の樣に。其國の內幕を本國に知らせて遣り。應對

するには自分の考は隠して置き。同じ口にてまだ舌の乾かぬ内に然りと云たり、否と云たりして。容易に信用の出來なかつた者です。今日は何所の國から使はされた公使でも。萬國公法を守り。無暗に自分の國さへ宜しければ外の國は如何なつても構はぬと云ふ樣な。利己主義の人計りではありませぬ。出來るだけ國と國とは正義を以て交通したいと云ふ考があります。此樣に萬國の交通が繁く成り。國と國との交際も厚くなり。正義を以て交通する樣に成つたのも必ず何か理由のある事です。又源因のあるおとです。其理由や原因を知らふと思はゝ基督教の歴史を能く調べなければなりませぬ。基督教が一度世に顯はれてから。萬國交通に非常な變動を起しました。第一章に述べました通り。基督教は國家に

と云ふものは神聖なるものであると云ふ事を敎へますから。人が國家と云ふものは神聖なるものであると信ずる上は。如何しても他國だからと云ふて。容易に輕蔑するおとは出來ませぬ。利己主義を貫ふとする者は眞神の御心に背き。國家と云ふものは如何云ふ者であるか知らぬ者です。又基督敎は萬國の民は皆兄弟である父は一人で人間は何所の國に住んで居る者でも皆其一人の父なる眞神樣に創造れた者であると云ふ事を敎ますから。其敎を信ずる者は假令顔色は變り知識のない無學の者でも。皆兄弟として交際を致ます。基督敎は萬國交通の道を盛大にする敎です。又國と國との正義公道を以て交際させる敎です。基督敎が萬國に廣まり其萬國の民が基督敎を信ずる樣になれば。今日の

大問題である條約改正も難なく其局を結ぶ事ができます。基督教は萬國公法を實行させる勢力ある教です。

基督教と政治　終

明治二十三年四月七日印刷
同　年同月八日出版

著作兼發行者　田村直臣　東京麹町區有樂町三丁目二番地
印刷者　島連太郎　東京京橋區西紺屋町廿六番地寄留
印刷所　秀英舍　東京京橋區西紺屋町廿六七番地
賣捌所　警醒社　東京京橋區出雲町一番地

版錄